

**国際条約で憲法が生き返った！
本多先生、喜んでください。**

正路怜子(WWN 代表)

均等法以前に採用された人は、ずっと差別の是正はないのですか・・・2000年7月、住友電工裁判で原告敗訴の時に白藤さんが流した涙が、急転直下3年半で喜びに変わった。WWNの勇猛果敢な体当たりのロビー活動によって、ILO・国連人権委員会・CEDAWと国際機関を巻き込み、住友の男女差別とその是正運動を支えるWWNは国際的にもすっかり有名になった。

国際条約を適用すれば必ず勝てる、と力説していた本多淳亮先生が生きていたら、どんなに喜んでくれたことだろうか。

今回の和解の意義は弁護団声明にあるように、実質的に男女差別があるのなら、採用区分と関係なく、差別は是正しなくてはいけないのだとしたことです。そして、勇気を振るって裁判提訴した原告の昇格まで保障したことです。

やっと日本の男女平等が国際基準で考えられる時代が来たのです。

今回の和解は、採用区分が違うから、パートだからと、あきらめているたくさんの女性たちを励ますことでしょう。

WWNは小さな草の根のNGOですが、CEDAWの勧告と今回の和解を日本中に広めることで、日本の男女平等が前進するようがんばります。男性の働きすぎをなくし、女性の労働権を確立して、男女ともに働いて生きていける社会の実現を目指します。

「裁判しているのは、たった二人ではないか」といわれた住友電工裁判が、憲法14条を生き返らせ、日本の間接差別をなくすために貢献できたことを、ともに喜びたいと思います。みなさん、いろいろありがとうございました。(2004.1.4)